

東議員（民主県政会）

令和6年2月16日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）平川教育長2期6年の取組と成果について

平川教育長に対しては様々な評価がある中、2期6年間の任期を終えようとしている現在、知事の期待やとりわけ県民の信頼にどのように応えてきたのか、教育長の思いを伺う。

（答）

平成30年4月に教育長に就任した私には、少子化の急速な進行や、グローバル化の進展、デジタル技術の高度化など、教育を取り巻く情勢が大きく変化する中で、これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指す「主体的な学び」を促す教育活動、すなわち「学びの変革」を発展・加速する役割が課せられていたものと認識しております。

着任以降、教育の質的転換として、

- ・ 全ての校種における課題発見・解決学習を取り入れたカリキュラムの開発や、
- ・ 児童生徒の資質・能力の定着状況を評価するルーブリックの研究・実践、
- ・ 探究的な学びを実現するための教員の資質・能力の向上

などに取り組んでまいりました。

また、「学びの変革」を推進する基盤として、全国に先駆けて、全ての県立学校におきまして、生徒一人1台のコンピュータを導入し、校内通信ネットワークを整備したほか、広島叡智学園では、国際バカロレアの認定を受け、在籍する全ての生徒が国際バカロレアの教育プログラムを履修する、日本唯一の公立学校として、先進的な学びを実践するとともに、多くの教員の視察の受入れによりその成果を普及しており「学びの変革」を先導的に実践する役割を果たしているところでございます。

さらに、「学びの変革」の理念に基づき、高等学校入学者選抜制度の改善等を通じて、「自己を認識する力」、「自分の人生を選択する力」、「表現する力」の3つの資質・能力を、「広島県の15歳の生徒に身につけておいてもらいたい力」として位置付け、その育成を図っているところでございます。

このほか、自由進度学習と呼ばれる、個々の学習進度に応じた指導方法の研究開発を進めるとともに、スペシャルサポートルームの設置支援や、「School “S”」の開設による、不登校等児童生徒に対する多様な学びの機会と選択肢の提供などを通じて、児童生徒が人や社会との繋がりを断つことなく、将来、自立して生きていけるよう、「個別最適な学び」の充実などにも取り組んでまいりました。

これまでの6年間における、「子ども起点」での様々な取組により、教育委員会の意識も大きく変化し、「学びの変革」の実現に向けた道筋をつけることができたものと考えており、引き続き、教育委員会が一丸となって「学びの変革」の実現に向けた取組を進めてまいります。